

とうかつ 普及だより

第43号

令和5年12月発行

発行：千葉県東葛飾農業事務所改良普及課

：東葛飾農林業振興普及協議会

住所：柏市柏255-1

電話：04-7162-6151

FAX：04-7162-6154

<http://www.pref.chiba.lg.jp/ap-toukatsu>



花芽の生理生態を知る



先進農家の育苗事例を学ぶ



日々の疑問について意見交換

農業事務所では、JA西印旛、JAとうかつ中央、JA全農ちば、印旛農業事務所と連携し、東葛・北総地域で新たにいちご栽培に取り組む生産者23名を対象に、栽培技術の習得と地域の垣根を越えたネットワーク構築を促すために研修会を開催しています。

本年度は、農薬・資材メーカーのほか、県農林総合研究センターを講師に招き、「栽培管理」・「病害虫防除」・「花芽分化」・「天敵利用」など栽培の基本となるテーマを中心に7回の研修会を計画しました。

第1回目となる6月22日は、講義と座談会を行い、基本的ないちごの栽培知識について学ぶとともに、各自が抱える悩みや優良情報について活発な意見交換が行われました。出席者からは、「今まで聞けなかった疑問を相談することができた」、「他の生産者と交流ができて良かった」等の感想が聞かれました。

今後も、研修会や情報交換の機会を設け、技術習得と地域を越えた生産者間の交流を進め、新たにいちご栽培に取り組む生産者を支援していきます。

新規いちご生産者たちが

地域を越えて学び合う！

「燃やせる土」を使った
シクラメンの販売拡大の取組

東葛飾地域の代表的な花きにシクラメンが挙げられます。冬の鉢花として人気のあるシクラメンですが、花が咲き終わった後には土の処分が必要です。土は、多くの自治体で可燃・不燃などのいずれのごみとしても出すことができません。このことが、特に集合住宅でお住まいの方が鉢花を気軽に購入できない原因の一つになっています。

そこで千葉県では、100%植物由来の焼却可能な資材（グロウアース※、ピートモス、ヤシ殻）を使用した「燃やせる土」を開発しました。従来から「燃やせる土」というコンセプトの商品は販売されていますが、高価で鉢花生産者が活用できるものはありませんでした。一方、千葉県で開発した「燃やせる土」は従来のものより安価で、育苗から鉢上げ後まで一貫して使用することができま

す。管内では数年前から、この「燃やせる土」を利用したシクラメンの生産が試験的に行われてき

ましたが、今年度からはこの土を使ったシクラメンの本格的な出荷が始まりました。これに合わせ、購入客が燃やせる土の特徴や利点をより理解できるように、「千葉県よろず支援拠点（公益財団法人千葉県産業振興センター）の協力により、シクラメンに添付するラベルや園芸店向けのチラシが作成されました。処分が簡単で、SDGsにも貢献できる「燃やせる土」により、シクラメンの販売拡大が期待されます。

※国産の木質チップを原料に独自加工を施した木質培地のこと



「燃やせる土」の
説明ラベル

東葛飾地域経営研修会を開催
「経営を再点検しよう」

近年、農業を取り巻く状況は、生産資材価格や燃料費の高騰、新型コロナウイルス感染症の流行による社会生活の停滞など、予想のできない変化に見舞われています。このような状況に対応するため、自己の経営を見つめ直し、改善につなげることを目的に、令和5年10月19日に東葛飾農林業振興普及協議会と東葛飾地区指導農業士会の共催により経営研修会が開催されました。

研修は、「経営理論と改善で実現するこれからの農業経営」というテーマで開かれ、最初にフアームサイド（株）の佐川友彦氏から、自己の経験を基にした、経営の再点検による改善の進め方についての講義があり、その後、参加者同士の意見交換や質疑応答が行われました。当日は指導農業士や農業士、4Hクラブ員、農業経営体育成セミナー生等、ベテランから若手農業者まで100名を超える参加がありました。参加者は講義を熱心に聞き、意見交換の際

は、経営品目や地域が異なる参加者同士で積極的に話し合いが行われました。また、質疑応答では、事業継承の悩みや、経営改善はどのように優先順位をつけて実践していったかなどの質問が寄せられました。研修会後には「自分の経営を見直す良い機会になった！」との声もあり、有意義な研修会となりました。



熱心に講演を聞く参加者

なしの火傷病の状況と
今後の対応策について

1 火傷病とは？

火傷病は *Erwinia amylovora* という細菌によって引き起こされる病気で、感染すると火にあぶられたような症状を示し、樹全体が枯れることもあります。りんご属、なし属、びわ等が感染し、ハチ等の昆虫や風雨、また花粉によっても感染が広がります。

現在、根絶できる有効な防除法は確立できておらず、発生した場合は、伐採により拡大を防止する必要があります。

一度国内に侵入すると、梨やりんご等の生産に重大な損害が生じてしまうため、国内への侵入を防ぐとともに、早期発見が非常に重要です。

疑わしい症状を発見した場合は、すぐに農業事務所に御連絡をお願いします。

2 中国産花粉の輸入停止

中国での火傷病の発生に伴い、本年8月30日に中国産の火傷病菌の宿主植物（花粉等）の輸

入が停止されました。

また感染リスクのある花粉が出回ることを防ぐため、輸入業者やJA、生産者が保有する在庫についても今後使用されないよう、全量買い上げ、廃棄とする方針です。

現在、中国産輸入花粉の在庫状況、使用した園地の調査を実施しています。回収方法等は決まり次第お知らせします。

日本では、梨の授粉に中国産の輸入花粉を使用することが多いですが、これまで輸入花粉を使用していた園では、令和6年度からは授粉に使用する花粉を自分で採取するなどの対応策が必要となります。

3 令和6年の対応策

混植園や周囲に自然がある園では、訪花昆虫による自然授粉や、ミツバチの導入で対応が可能です。しかし単植園や住宅街にある園では、人工授粉が必要のため、自家採取による花粉の確保が必要です。そこでいかに花粉採取のための作業時間を確保するかが鍵になります。

また、摘蕾等により、使用する花粉を減らすことも重要です。花粉が足りない場合は、幸水や

新高等、授粉の必要度が高い品種を優先させましょう。花粉を採取する場合は、ステージ3以降の花を採取します(図1)。

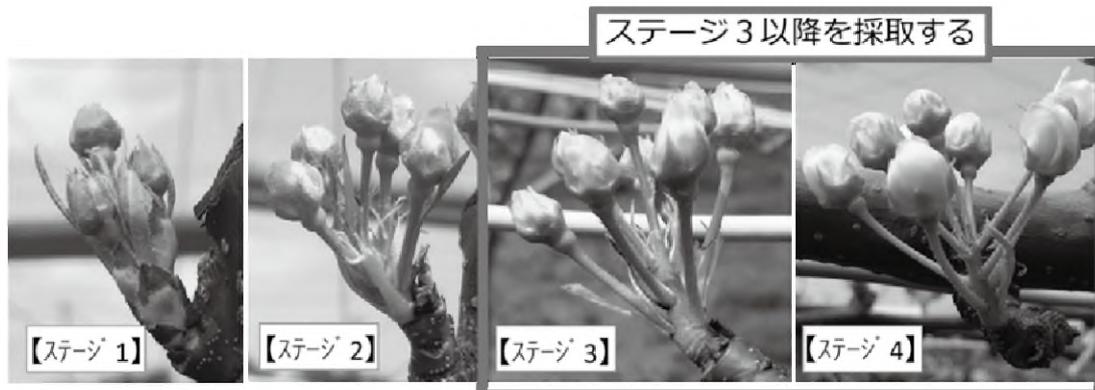


図1 採取する花のステージ

4 令和7年以降の対応策

今後も中国花粉の輸入が再開しないことを想定し、長期的に花粉の確保への対応が必要です。一つ目は、花粉採取樹の定植です。園外に定植し花を採取する場合は、低樹高のジョイント仕立てやV字トレリス栽培等が効果的です。

品種選びのポイントは①生育が良い②花粉量が多い③開花が早い等があります。花粉採取に適した品種は、松島、新興、二十世紀等が挙げられます。最近ではネパール系や低温発芽性の高い土佐梨等の品種も注目されています。

二つ目は、花採取の労力確保です。近年労力不足により花を採取する時間の確保が難しくなっているため、剪定を早く終わらせる、授粉のパート従業員に開花前から来てもらう等も重要です。

「なるみ」等の和合性品種の導入は対応策の一つです。また、「あきづき」は自家不和合性ですが混植園では良く結実します。各園で取組可能な対策を実施し、来年も良い梨が収穫できるよう準備してください。

ねぎのべと病に注意しましょう！



べと病の激発圃場

近年、東葛飾地域のねぎにおいてべと病の被害が多発しています。ねぎが本病に感染すると、葉身に暗緑色で楕円形の病斑を生じ、症状が進むと枯死します。多発すると収量・品質が低下するので、防除のポイントを押さえ、まん延を防止しましょう。

1 ベと病の発生条件

べと病は、気温15℃前後で雨が多い時期に発生し、当地域では、4月～7月、11月～12月に多発する傾向があります。また、水はけが悪く日陰で風通しの悪い圃場で発生しやすくなります。

2 防除のポイント

(1) 育苗管理の徹底

ねぎの発芽適温とべと病の発生適温がほぼ同じであるため、育苗時は特に感染リスクが高くなります。

①ポット育苗においては、温湿度管理や薬剤の定期防除を徹底しましょう。

②地床育苗においては防除の徹底に加え、は種は厚まきを避けて風通しを良くしましょう。また、過剰な施肥は発病を助長するので適正施肥に努めましょう。

(2) 発生前の適期予防

まん延時期の約半月前から薬剤散布を開始しましょう。春は3月中旬頃、秋は10月中旬頃が予防開始の時期です。

(3) 散布ムラをなくす

べと病の菌は葉の気孔から侵入するため、葉の全体に薬剤を付着させることがポイントとなります。散布液には展着剤を加用し、株全体にまんべんなく散布しましょう。

(4) 被害残さの適切な処理

被害残さを畑にすき込むと次の発生源になります。畑から持ち出し、焼却処分するか、堆肥化处理をしましょう。

こまつな・こかぶの白さび病の生態と防除

東葛飾地域で盛んに栽培されている、こまつなやこかぶにおいて、近年、白さび病が多発しており、品質や収量の低下が見受けられています。

1 白さび病に感染すると

葉の表面もしくは裏面に乳白色でやや盛り上がった粉状の塊を形成します。また、症状が進行すると葉が淡緑色から淡黄色になります。

2 白さび病の発生条件

平均気温が7～20℃の間で発生しますが、12～15℃が最も蔓延しやすくなります。時期としては3月～6月、10月～11月に発生しやすく、多雨や多湿が続くと発生が助長されます。また、風や水によって伝染し周囲に蔓延します。

3 防除のポイント

①降雨や多湿等の環境下では蔓延が早く、発病後は農薬防除の効果は低いいため、予防的に薬剤

防除を行う必要があります。

②梅雨や秋雨時期に多発する傾向にあるため、高うね栽培等の排水対策を施します。また、過繁茂になり過ぎないように適正な播種量を心がけ、風通しを良くする等の対策が必要です。

③罹病株上の分生子が伝染源となるため、発病株や残渣はそのままにせず直ちにほ場外に持ち出し処分しましょう。

④近年は耐病性を持った品種も出てきました。耕種的防除や薬剤防除と組み合わせるとより効果的な防除が期待できます。



こかぶに発生した白さび病

令和5年度千葉県指導農業者
及び農業者新規認証者の紹介

令和5年度、東葛飾地域からは指導農業者1名、農業者2名が認証されました。指導農業者は地域農業をけん引し、後継者に熱意をもつて育成・指導を行う農業者です。また、農業者は地域農業のリーダー的存在として活躍する青年農業者です。

今後は個々の経営をさらに発展させるとともに、地域農業の指導者やリーダーとして、一層の活躍が期待されます。

【指導農業者】



石神 辰巳氏
(船橋市)

露地野菜経営で、市場との信頼関係を築くことで有利販売につながっています。また、若手にアドバイスを行う等、担い手育成にも大きく貢献されています。

【農業者】



石井 直樹氏
(船橋市)

露地野菜経営で、土づくりや品種選定にこだわりつつ、味や品質を重視した栽培を心がけて安定した顧客確保につなげています。



宇田川 浩一郎氏
(市川市)

果樹の専作経営で、顧客の確保により直売率を高めるとともに、樹園図を基にした適切な生産管理を行い、安定生産を実現しています。

収入保険への加入を
御検討ください

収入保険は、自然災害、市場価格の低下、新型コロナウイルス感染症の影響、けがや病気、盗難等による収入の減少を補償します。

1 対象者

青色申告を行っている県内在住の農業者の方(個人・法人)
(加入申請時に申告実績が1年以上ある方)

収入保険と、農業共済・ナラシ対策・野菜価格安定制度などの類似制度は、どちらかを選択していただきます。

2 対象収入

自ら生産した農作物の販売収入の全体

3 対象期間

個人…1月から12月まで
法人…事業年度の1年間

4 加入申込み

個人…10月から12月まで
法人…事業年度開始の前月末まで

保険料の試算などはお早めに千葉県農業共済組合にご相談ください。

〇県の補助金について

令和4年度から令和6年度までの期間限定で、新規に収入保険に加入した方を対象に助成を行っています。

令和5年度中に保険期間が開始し、令和6年1月末までに積立方式による新規加入手続をされた方が対象です。

収入保険申し込み時に、千葉県農業共済組合に交付申請書を提出してください。

〇問い合わせ先

千葉県農業共済組合北総支所
043(481)6911

※補助金については県ホームページ(団体指導課)をご覧ください。

